

湘北数理・データサイエンス・AI教育プログラム
令和7(2025)年度 自己点検・評価結果

2026年5月20日

湘北短期大学

数理・データサイエンス・AI教育推進ワーキンググループ

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	数理・データサイエンス・AI教育推進ワーキンググループおよび教務・学生課において本プログラムの履修・単位修得状況を分析している。総合ビジネス・情報学科および生活プロデュース学科の必修科目「情報リテラシー(データサイエンス入門)」の単位修得率は85.5%(206/241名)であった。保育学科の必修科目「保育のためのICT・DX入門Ⅱ」の単位修得率は98.8%(85/86名)であった。
学修成果	担当教員はLMSを通じて学生の進捗を常に把握しており、担当教員および数理・データサイエンス・AI教育推進ワーキンググループにおいて本プログラムの履修・単位修得状況を分析している。 「情報リテラシー(データサイエンス入門)」は、全15回(動画・課題提出・小テストを含む全94レクチャー)のオンデマンド科目であり、LMSへのログイン状況、動画閲覧状況、課題提出状況を教員が常にモニタリングし、進捗の芳しくない学生には対面およびメール等でリマインドした。単元ごとの小テストをクリアしない限り先のレクチャーに進めない仕様としているため、全レクチャーに取り組んだ学生は一定の学修成果を有していると考えられる。また、「保育のためのICT・DX入門Ⅱ」は、隔週開講の通年科目とし、保育学科においても学生が常に数理・データサイエンス・AIに関する情報に触れ続けられるカリキュラムとしている。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	教務・学生課において本教育プログラム受講者全員に対して授業改善アンケートを実施している。また、リベラルアーツセンターにおいて、オンデマンド科目の受講スタイルに関するアンケートを実施している。数理・データサイエンス・AI教育推進ワーキンググループにおいて各アンケート結果を分析している。 授業改善アンケートの設問で「この授業の目的とする知識や技能、考え方が身についたか」「この授業を通じて自分が以前より成長できたか」を調査している。4段階評価で肯定的な意見が、「情報リテラシー(データサイエンス入門)」においては、各90%を、「保育のためのICT・DX入門Ⅱ」では各97%を超える結果となった。学生の自己評価として、各自が内容を理解できたと考えられる。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	授業改善アンケートの設問「授業の内容は興味深いものであったか」を調査している。4段階評価で肯定的な意見が、「情報リテラシー(データサイエンス入門)」においては84.5%、「保育のためのICT・DX入門Ⅱ」では93.9%となった。後輩等への推奨度を直接調査したものではないが、多くの学生にとって履修する価値のある内容として受け入れられたと考えられる。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	本教育プログラムを構成する「情報リテラシー(データサイエンス入門)」および「保育のためのICT・DX入門Ⅱ」は、各学科の卒業要件に含まれる必修科目として開講している。
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	令和7年度は、本教育プログラムを修了した学生が卒業する初めての年度であった。就職を希望する学生のうち、情報処理・通信技術者等の理系人材として職を得た学生は4.9%(14/288名)であった。3学科のうち情報系を専攻とした学生は32名で、進路選択においても例年に比して顕著な変化は見られなかった。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	学内で実施される合同企業説明会の参加企業に対して、採用したい学生に望むスキルを調査した(コミュニケーション力、協調性、ビジネスマナー等13項目より上位3項目を選択。有効回答67社分)。結果として、本プログラムに関連する理系のスキルを上位に選択する企業は多くなかった(論理的思考力(5.5%)、計算力(2.7%)、PC活用能力(5.5%))。 インターンシップ実習先の企業に対し、AI活用状況について調査した(有効回答36社分)。業種による差はあるが、各社徐々にAIを活用し始めていることがわかった(大変活用している(16.7%)、やや活用している(55.6%)、今後活用予定(13.9%)、活用する予定はない(13.9%))。現プログラムにおいてすでにAI活用に関する学習機会を提供しており、就職後にいかすことができると考えられる。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	「情報リテラシー(データサイエンス入門)」および「保育のためのICT・DX入門Ⅱ」において、学修内容と関連するパソコン操作や便利機能を随時紹介している。パソコン操作に苦手意識を持っている学生ほど、新たな機能を知ったことや面接授業における丁寧な指導に対して好意的な意見を持っていることが、授業改善アンケートの自由記述から明らかとなった。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	教員相互の授業参観や、授業改善アンケート等で得られる情報、本教育プログラム以外の授業内容・スタイルも参考にし、分かりやすさの観点から授業およびプログラムを、数理・データサイエンス・AI教育推進ワーキンググループにおいて継続点検する。